

「みんなでつくる下諏訪デジタルアルバム」で見る ～戦時中の下諏訪～

広瀬町少年団



昭和12年7月7日に支那事変が勃発。このときに町内の組長や在郷軍人等の要望により結成された広瀬町少年団。小学1年生から高等科2年生(現在の中学2年生)の男子全員が毎週日曜日の朝6時に三国座通りへ集合。駆け足で秋宮へ必勝祈願に行き、その後帰町して町内道路や駅の清掃をした。

昭和12年10月撮影 (シロトリ写真館蔵)

健勝祈願幟



太平洋戦争中に出征軍人の武運長久を祈って幟を屋敷内に建てた。幟は諏訪大社の宮司に書いてもらうことが多かった。

昭和15年3月1日撮影
(河西孝雄氏蔵「写真で見る下の原」)

出征軍人の見送り



下諏訪駅で出征軍人を送る風景。日の丸の旗や出征軍人の名前を書いた幟旗がたくさん見える。終戦近くなるとにぎやかな見送りは禁止となった。

昭和13年頃撮影
(河西孝雄氏蔵「写真で見る下の原」)

出征軍人の見送り



出征軍人を見送る様子。壇上には出征軍人。手前には多くの少年少女が整然と並んで見送る様子が見える。

撮影日時不明
(博物館蔵「思い出のアルバム諏訪・岡谷」)

インターネット上で「みんなでつくる下諏訪町デジタルアルバム」を公開しています。パソコンまたはスマートフォンで下のURLを入力するか、「下諏訪デジタルアルバム」で検索するとアクセスできます。

<https://d-commons.net/shimosuwa/>



スマートフォンからはこちら。デジタルアルバムへ直接アクセスすることができます。

鉄骨警鐘楼



太平洋戦争末期になると、兵器にするため民間の鉄材を供出する運動があり、第一分団の屯所の上に建てられていた火の見やぐらも倒されて供出された。金属供出で取り壊す前の記念写真。昭和18年撮影（河西孝雄氏蔵）

丸六製糸場



丸六製糸場（片倉製糸下諏訪製糸所）。昭和18年軍需工場となり、昭和23年再開。昭和30年ヤシカとなり、現在は武藤工業となっている。

撮影日時不明（博物館蔵「写真が語る下諏訪の百年」）

昭和19年御柱祭里曳き見物客



昭和19年（終戦の前年）の御柱祭の様子。成人男性が少なかったため、国民学校の6年生が動員された。

昭和19年綱打ち



里曳きで賑わう大門通り。下馬橋から南側を望む。昭和19年撮影（河西孝雄氏蔵）

大門通りの南側を望む。昭和19年撮影（河西孝雄氏蔵）

学校では、5、6年生が少年団として団体行動や太い木の枝で手りゅう弾を投げる練習をしました。戦争末期になると、愛国婦人会の皆さんと日の丸の旗を持って下諏訪駅に兵隊さんの遺骨を迎えに行きました。

昭和19年12月7日午後1時ごろ東南海地震があり、学校の壁が崩れ黒板だけが教室の柱に残った廊下を避けて避難しました。

下諏訪倉庫は、本土決戦に備えて、疎開してきた兵器補給廠となり、武器の倉庫となっていました。終戦後しばらくするとGHQ（進駐軍）のトラックが大門通りに何十台も並び倉庫に貯蔵してあった武器を積んでいきました。子どもたちは、チョコレートをもろうためにアメリカ兵のトラックに群がりました。

昭和19年当時、国民学校の6年生だった下諏訪倉庫代表取締役会長の三井章義さんにお聞きしました。



下諏訪町立博物館・赤彦記念館では、「みんなでつくる下諏訪デジタルアルバム」に登録されている写真を中心に、昔の下諏訪の姿と現在の下諏訪の姿を紹介する企画写真展「道標～歩いてきた道、これからの道～」を9月5日（日）まで開催しています。変わりゆく下諏訪の姿を写真で見ることができます。

食は命を育みます

食育アドバイザー（西鷹野町）

島田 しまだ 博子 ひろこ



人に良いと書いて「食」。そんな意識すら全くなかった私は、極々普通に自分の経験値と価値観で食事を作っていました。そんなある日、講演会で私は衝撃を受けました。『身体を健康にするのも食べ物、病気になるのも食べ物、だから家族の食事を作っている親御さんの役割はとっても重要なんです！』私はこのままでは、家族を病気にさせてしまうかもしれない、知らなかったでは済まされないと、良くも悪くも知らないとい

事で病気の基を作ってしまったているかもしれない！と、強く感じました。

それからNPO法人日本食育協会の存在を教えていただき、学びながら毎日の食事作りに役立てていくようになりました。

おかげ様で子どもたちも親元を離れ自立してからは、我が子のみならず地域の子どもたち、子育て中の親御さん方に食の大切さを知っていただきたい、そのお手伝いができたらと思います。上級食育指導士、スポーツ食育アドバイザーの資格を取得しました。

現在、月一回開催される二歳児親子対象の「セカンドブックのつどい」にミニ食育、下諏訪ミニバスケットボールチームの子どもたちに数回ですが、食育アドバイザーをさせていただいて

います。昨年度からは、食育子どもランド事業として、6大栄養素をバランスよくトッピングしながらインスタントラーメンをアレンジしたり、出汁だしをとってお味噌汁を作ったりと子どもたちが自分で食事を作る力を身につけられるよう、企画させて

自分だけのオリジナルラーメンを作ろう。肉、野菜、ツナ、きのこ、ワカメ、のり・・・何をトッピングしようかな。



昆布、鰹節、煮干しから出汁をとって味噌汁を作ろう。

いただいています。

近年は、多種多様な食品や情報があふれていて、食材を選択するのが本当に難しくなっています。故に、食事を作る人が学んで、自分自身とそして家族を守っていく、それが食育の意義かなと私は考えます。

これからも『食を知り、食を選べる子どもたち』の育成をお手伝いしていけたらと思っています。

次ページには、セカンドブックのつどいにお話している手作り資料の要約を掲載させていただきました。他にもスポーツ編、大学生編、高齢者向けなどもあります。



スポーツ食育での体力づくりと食事についてお話をしています。

食という漢字を見ると…

人に良いから食べものです



身体材料は100%食べ物です

親御さんの責任重大

身体に悪い食べ物を知り、できるだけ摂らないようにする



食材選び

食品添加物

輸入食材の安全性

調理して

トランス脂肪酸

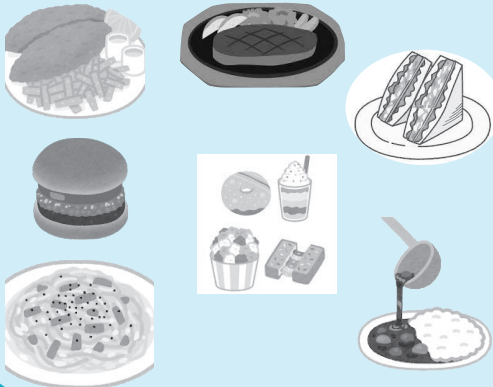
塩分、糖質の
摂り過ぎ



食べさせる



9歳までに味覚を育てましょう



現代食の問題点

- ①動物性食品が多い
- ②炭水化物が多い
- ③ビタミン・ミネラルが不足
- ④食物繊維が不足

6大栄養素をバランスよく摂りましょう

6大栄養素

- ①糖質
- ②脂質
- ③たんぱく質
- ④ミネラル
- ⑤ビタミン
- ⑥食物繊維

6大栄養素をバランスよく摂る合言葉「まごわやさしいこ」

たんぱく質が豊富です。噛む回数が増え脳の血液循環が活性化



まめ



ごま

ビタミン、ミネラル、脂質がいっぱい



わかめ

ミネラルや食物繊維がいっぱい

食物繊維、ビタミン、ミネラルがいっぱい



やさしい

脳の活動を活発にすると
いわれるDHAやEPAが豊富



さかな

低カロリーで、ビタミンや食物繊維がいっぱい



しいたけ

ビタミンや食物繊維がいっぱい



いも

炭水化物はエネルギー



ごはん

さくら保育園

さくら保育園です。令和3年度は
141名のお友達とスタートしました。

げんきいっぱい
さくらっこ!

たのしいこと、たくさんやっちゃおう!!



絵本、紙芝居大好き

お話に夢中になって、紙芝居にかぶりつき
ひよこ組 (0・1・2歳児)



満開の桜の下をお散歩しました (花見新道)
富士山も見つけちゃいました。うめ・もも組 (5・4歳児)



なんと! 青いザリガニを飼育しています
名前は“ザリ子”です。つくし組 (2歳児)



サツマイモ畑を耕して
いたら、いつのまにか
虫探しに熱中してし
まりました。

みんなで虫探し



泥んこ遊び 最高!



思いっきり遊んで、楽しく食べて、
これからもみんなでなかよく遊ぼうね!

zzz...



下諏訪町教育委員会、下諏訪町地域包括医療推進協議会 主催

しもすわ健康づくり
応援ポイント10ポイント
もらえます



第22回 下諏訪ギネスに挑戦!

& 推定歩行年齢がわかる! 歩行姿勢測定

下諏訪ギネスに挑戦!

未就学児の部~70歳以上の部に分け、全6種目の歴代記録の更新を目指します!
記録を更新された方には、「ギネス認定証」が贈られます。



参加費無料
事前申込不要

推定歩行年齢がわかる! 歩行姿勢測定

やまびこスケートの森スタッフがあなたの歩きを測定し、「速度年齢」「姿勢年齢」「バランス年齢」から推定歩行年齢を分析します!(成人の方に限ります)

- 会場 下諏訪体育館アリーナ (当日受付)
- 日時 8月21日(土) 午後2時~午後4時 (受付/午後1時30分~午後2時30分)
- 対象 下諏訪町在住・在勤・在学の方 (小学生未満は大人の付き添いが必要です)
- 持ち物 運動のできる服装、上履き、タオル、飲み物
- お問い合わせ先: 下諏訪体育館 TEL.0266-27-1455

参加される方は、マスクの着用など感染予防にご協力をお願いします。
新型コロナウイルス感染症の地域の感染拡大の状況により、行事内容の変更および中止とする場合があります。

公民館特別事業 「平和展・戦争の時代を考える」

期 日: 8月13日(金)~8月23日(月)
会 場: 下諏訪総合文化センター 1階展示コーナー
内 容: パネル展示

八月のこえ

諏訪湖では昭和24年から毎年8月15日に諏訪湖上花火大会を開催しています。今年は諏訪湖上花火大会も新型コロナウイルス感染症の影響で分散開催となりました。夏を彩る花火は、花火師が扱う大掛かりな物から、家庭用の手持ち花火まで様々な種類がありますが、基本的には火薬にある種の金属を混ぜ、その「炎色反応」により色とりどりの炎を作り出しています。炎色反応は中学か高校の化学で習ったのではないのでしょうか。私は、授業で見た炎色反応が印象的で、中学校時代所属していた化学部で様々な金属の炎色反応を実験していたことを思い出します。

そんな私は、花火を見ているとつい炎色反応についてつぶやいてしまいます。

「あの青緑色は銅、オレンジ色はカルシウム、赤色はリチウム、発色のいい紫色はカリウムだな」といった感じです。

だからいつも周囲からは風情がないと言われるのですが、実は花火の仕組みについて理解しているからこそ花火師の地道な努力や工夫にとっても感動しているのです。

子どものころ色々な花火をやりましたが、いつも最後にやる線香花火は風情のない私でも物悲しかったです。

新型コロナウイルス感染症が落ち着いて、皆が心から花火を楽しめる日が一日も早く訪れることを願っています。

(相澤 崇)